

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	浮羽町立浮羽中学校					教員数 28
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	
学級数	5	5	5	0	15	
生徒数	169	178	196	0	543	

研究の概要

1.研究主題

確かな学力の創造 ~学力向上フロンティアスクールの取り組みを通して~

2.研究内容与方法

(1)実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 数学、英語 生徒の理解の状況が3年生に進級した時点で相当の差が生じやすい教科であるから、配当された少人数加配教師を中心にした少人数授業の取り組みの研究を通して基礎学力の定着と、数学的思考の発展につとめる。 ・2年生 数学、英語、理科 本年度の2年生は昨年度数学、英語に関しては少人数授業での取り組みがなされておらず、2年の時点で生徒の間では基礎学力の定着に関してかなりの差がある。そのため、少人数授業(習熟度別授業)の研究・実践を通して基礎学力の定着をはかる。理科においてもTT等を用いた指導法工夫に関する研究を進める。 ・3年生 英語、国語 発展教材、補充教材の開発はフロンティアスクールの取り組みの重要課題ととらえ、授業の中で発展的学習、補充学習を展開するための工夫と教材づくりを進める。

(2)年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 評価を授業へ生かす方法の工夫 仮説 観点別評価の方法等の確立と、評価の実施が中心研究であり、仮説は立てていない。 研究内容・方法 評価を生かした指導の改善 新学習指導要領の完全実施に伴って、本年度から絶対評価の導入が義務づけられた。一人ひとりの子どものつまづき等を評価から確認し、それに基づいた指導方法の工夫・改善に結びつける。このことを推進することを1つの重要な研究とする。 個に応じた指導(発展教材、補充教材の開発と活用) 本年は指導方法工夫改善加配として、数学、英語の2教科の加配をいただいた。数学は1年生、英語は2年生を中心に少人数による指導を実施してきた。グループ分けが、完全な習熟度別クラスには出来ず、少人数の中で教材を何種類か作成し、きめ細かく対応した。
--------	--

平成	テーマ 確かな学力の創造 ~評価を指導に生かす指導、少人数授業の授業の実践を通して~ 研究の見通し ・この一年間研究を通して、教師全体が評価と指導の一体化を図れるようになると共に課題を把握する。 ・少人数授業(習熟度別授業)の研究を進め、取り組みの定着化ときめ細やかな指導の実践が出来るようになると共に課題を把握する。 研究の内容・方法
----	--

15 年 度	<p>【国語・数学・英語・理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業研究[6月公開授業(英語・数学)][11月実践交流会(国語・数学・理科・英語)]を中心に授業を通して、評価計画を位置づけた指導計画の見直しを図る。 <p>ア 授業研究の視点 評価に基づいた少人数授業での指導形態、指導方法をどのように改善したか。 個に応じた学習用具や場などをいかに工夫してきめ細かい指導をしたか。</p> <p>イ 教材開発の視点 補充教材、発展教材の開発の視点の具体化。 ・補充教材 反復性、活動性からの教材化。 ・発展教材 関連性、多面性からの教材化。 基礎・基本を身に付ける学習における教材開発</p> <p>ア、イについてはそれぞれの教科部会で重要単元を選択して研究を進める。</p> <p>【上記以外の教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教科の基礎・基本を確認し、その基礎・基本を身に付けさせ、向上させるためにどのような具体的取り組みをしていったか明らかにする。 ・学習活動の中で、生徒による自己評価、相互評価の場面を設定し、自己教育力の向上をめざす。 <p>ア 教科部会での基礎・基本の確認、具体的手だての決定。 イ 実践例を報告集としてまとめる。</p>
--------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 基礎・基本の定着 ～評価活動、授業の工夫改善を通して～(仮)研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価計画を位置づけた単元指導計画の中で診断的評価、形成的評価、総括的評価が取り入れられ、指導後指導計画の評価をして課題を把握する。 ・補充教材、発展教材の開発の視点をそれぞれの教科で確認し、日常の授業を通して研究を進め、課題を把握する。 ・少人数授業を中心にして、個に応じた指導の工夫改善のための研究を進め、課題を把握する <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の授業公開(公開授業、実践交流会)を中心に 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発、 個に応じた指導法の工夫改善、 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善の三点の視点に沿って毎日の授業づくりに務める。 ・年間を通した実践の報告集をまとめる。 具体的な方法については年度末の総括後決定したい。
--------------------	---

(3) 研究推進体制

<p>校内研究推進委員会は校長、教頭、研究担当者(フロンティアティチャー)、各学年2名、各教科代表1名で構成。全職員で取り組めるよう配慮している。</p> <p style="text-align: center;"> 校 長 — 教 頭 — 校内研究推進委員会 — 全職員 </p>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>【英語の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の少人数授業(単純クラス分割)において一斉授業とくらべてどうか。 分かりやすい72% 変わらない11% 分からない17% ・少人数授業(習熟度別)は一斉授業と比べてどうか。 分かりやすい82% 変わらない9% 分からない9% ・本年度2年英語科において習熟度別の授業の取り組みを行ったが、子どもたちの
--

アンケートでも分かるように子どもたちの実感として理解しやすい実態が明らかになった。特に分かりやすいと答えた割合が増え、分からないと答えた割合が減ったことは基礎・基本の定着という観点から考えると習熟度別授業の有効性が分かる。また成果として考えられるのは教師の意識改革の面である。従来クラス＝生活集団としてとらえ、習熟度別にクラスを分け授業していくことは弊害が多いという概念にとらわれた教師が多かったが、いろいろな配慮のもとに取り組んでいく中で、効果が大であることを認識していったことが大きい。

【数学の例】

- ・少人数授業（内容によって習熟度別取り入れ）において、指導計画に評価計画をきちんと位置づけ、子どもの自己評価を入れながら、評価と指導の一体化が進められていくことで個に応じたきめ細やかな指導が出来るようになった。「先生、ここが分かりません。」「今日の問題は手応えがありません。」等の子どもたちのつぶやきが多く出るようになった。

【その他】

- ・フロンティアスクールの事業に該当していない教科においても、評価の大切さ、指導法の工夫改善の大切さ、教材開発（発展教材・補充教材）の視点が具体化してきたことは大きな成果である。

2. 今後の課題

- ・評価計画の大切さ、評価規準の見直し等評価活動の大切さは教員集団に根付いてきたが、具体的実践の積み上げがないので、具体的実践と見直しを今後続けていかなくてはいけない。
- ・発展教材、補充教材の開発の視点がまだまだ不明瞭であるから、各教科で確認して、教材作りに務める必要がある。
- ・少人数授業（習熟度別授業を含めて）、その他の授業の課題を明確にし、個に応じたきめ細やかな指導のためにはどのような具体的工夫改善が必要なのか、明らかにしていく必要がある。

学力把握のための学校としての課題

- ・定期的な学力調査の実施（1年4月 3年11月 町の予算化有り）や毎学期の定期テスト等で子どもたちの学力把握に努めているが、特に学校での定期テストの場合、なかなか観点別の学力の進捗を具体的データとして把握することが出来ていない。教科によっては観点別に出題して子どもたちの学力の進捗が見れる工夫がなされているが不十分である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会や説明会等の開催実績、開催予定はないが、中教研組織での教科別研究会等で浮羽中の取り組みの紹介等は行った。
- ・他県（和歌山県）の中学校からフロンティアスクールについての問い合わせがあったときに概要（目的、取り組みの実際等）について説明し、紀要を送付した。
- ・フロンティアティチャーとして他校へ研究成果普及のための活動実績、または予定はない。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数授業	T.Tによる授業		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】			有	無